

□講義科目(専門科目)

科目名	ソーシャルワーク論	2単位
担当者	田中 千枝子 (非常勤教員)	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として、事例検討やロールプレイなどの実践を通じて理解する	
開講形態	全回対面形式	
科目のねらい	<p><キーワード> ①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④ミクロメゾマクロ実践 ⑤専門性</p> <p><内容の要約> ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチに関する基本的知識や支援観や視点を得ることによって、特にミクロからメゾレベルのソーシャルワークの専門性の確認をする。また実践事例を分析し、グループ作業によりコミュニケーションをはかる体験をすることで、価値に基づく知識・技術を検証し、さらにそれを専門職のコンピテンスとして身に着けるために集団学習およびレポート作成によるセルフワークによる学修を行う。</p> <p>方法としては、実際の事例に対して様々な教育的手法により実践理論・モデル・アプローチを適用し、参加型授業によって個人・集団・地域等一定の視点からの事例の展開を観察し理解し分析し、解釈および評価するプロセスを追い、事例検討の流れを体験する。</p> <p><学習目標> 人の生活/人生に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して、働きかけることができる。ソーシャルワークの理論や展開過程を問題解決に応用する能力として身に着け、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントスキルの研鑽に役立てることを目的とする。</p>	
授業の進め方	第 1回 オリエンテーション 授業契約 第 2回 SWの実践理論概論講義 第 3回 援助観・価値観の理論的変遷 事例による検討 第 4回 統合理論の概観 事例による検討 第 5回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ロールプレイ 第 6回 エコシステム理論と時間：空間 エコマップ・タイムライン作成 G作業 第 7回 ピンカス・ミナハンの4つのシステム理論、地域における多職種他機関連携を意識したエコマップ・タイムライン作成 G作業 第 8回 GWに関する基礎理論概観 チームアプローチ協働の型 ロールプレイ 第 9回 グループ力動論、司会の技術、事例検討、ロールプレイ KJ法によるGW 第10回 課題に対するプレゼンテーション技術 ディスカッションとリーダーシップ 第11回 地域福祉の技術と評価 調査研究 第12回 エンパワメント評価法 ワークショップのロールプレイ 第13回 SWリサーチ 介入計画の作成 第14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するSWとマネジメント レポート 第15回 グループ発表、まとめ、レポート作成	
事前学習の内容 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○前もって社会福祉学の基礎的な理論や概念の知識(教科書程度)を確認しておくこと ○ディスカッションやロールプレイなどG作業や演習形式を多用するので、積極的に参加すること ○専修や専攻を超えて様々な立場の学生が集まるので、多くの仲間を作るようにすること ○集中講義3日間 午前と午後計6回の授業内レポートを課し、理解の内容を確認する 	
本科目の 関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や各専攻の論文作成の枠組みや問題提起に寄与する。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格付与対象科目として認定されている。	
テキスト	木村容子・小原真知子編 「ソーシャルワーク論Ⅱ—理論と方法—」法律文化社 2023	
参考文献	渡部律子『福祉専門職のための統合的多面的アセスメント』ミネルヴァ 2020 ブトユリム・Z 『ソーシャルワークとは何か』川島書店 1986 その他資料配布	
成績評価方法 と基準	集中授業3日間で、午前・午後の2回×3＝6回 レポート提出 60% ディスカッション・ロールプレイへの参加度 40%	

□講義科目（基礎科目）

科目名	研究方法概論	2単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
開講形態	全回ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p><キーワード> 研究方法 質的方法 量的方法 研究課題 仮説</p> <p><内容の要約></p> <p>本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。質的方法と量的方法の双方を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法、質的分析の結果の示し方について解説する。量的方法に関しては、調査デザインの作成、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と分析方法を学ぶ。SPSSを用いた分析演習も複数回行う(※一部の回を一般公開する場合があります)。</p> <p><学習目標></p> <p>①質的および量的方法の概要を説明できる。②質的および量的データのとり方を説明できる。 ③質的および量的データの分析の仕方を説明できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 研究方法－質的方法と量的方法</p> <p>第2回 質的方法の概要</p> <p>第3回 質的データの取り方Ⅰ－インタビュー法</p> <p>第4回 質的データの取り方Ⅱ－観察法・エスノグラフィー</p> <p>第5回 質的データの分析法Ⅰ－グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTAを含む)</p> <p>第5回 質的データの分析法Ⅰ－その他の質的分析法</p> <p>第7回 質的データ分析の結果の示し方</p> <p>第8回 量的方法の概要</p> <p>第9回 質問紙の作成・配布・回収</p> <p>第10回 データ入力と基本集計</p> <p>第11回 SPSSを用いた量的分析Ⅰ－単純集計と変数の再構成の仕方</p> <p>第12回 SPSSを用いた量的分析Ⅱ－クロス集計とカイニ乗検定</p> <p>第13回 SPSSを用いた量的分析Ⅲ－平均値の比較に関する分析</p> <p>第14回 SPSSを用いた量的分析Ⅳ－相関分析と回帰分析</p> <p>第15回 混合研究法</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』と、須藤康介・古市憲寿他『新版文系でもわかる統計分析』を読みながら、本講義を受講すること。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法	
テキスト	テキストは用いません。毎回レジュメを配布し、講義と演習を行います。	
参考文献	<p>岩田正美・中谷陽明他『社会福祉研究法』有斐閣 2006年</p> <p>上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書 2018年</p> <p>木下康仁『ライブ講義 M-GTA』弘文堂 2007年</p> <p>グラハム・R・ギブズ『質的データの分析』新曜社 2017年</p> <p>向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社 2007年</p> <p>戈木クレイグヒル滋子『質的研究方法ゼミナール(増補版)』医学書院 2008年</p> <p>佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社 2008年</p> <p>須藤康介・古市憲寿・本田由紀『新版文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版 2018年</p> <p>高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年</p> <p>中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院 2015年</p> <p>パンチ,K.F.『社会調査入門:量的調査と質的調査の活用』慶応義塾大学出版会 2005年</p> <p>村瀬 洋一・高田 洋他『SPSSによる多変量解析』オーム社 2007年</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	